

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・観察を通して、植物や昆虫の部位の名前や成長過程の理解は、概ねできている。
- ・実験を通して、音が出ている時の物の震え方や伝わり方については、概ね理解している。
- ・様々な生き物や植物を育てること、それぞれの共通点や差異点に気付くことができた。
- ・どの単元の学習にも意欲的に学習に取り組む児童が多い。昆虫や植物の世話も積極的に行うことができる。

(2) 課題

- ・実験に意欲的に取り組むことができるが、実験結果から考察したり、考察したことを言葉で表現したりすることを苦手とする児童が見られる。
- ・用語の理解と実技技能の向上、実験器具の名称や扱い方の理解に課題が残る。
- ・観察して分かったことなどを観察カードに書けるようになってきているものの、そこから予想したり、考えたりしたことを書くのはまだ難しい。
- ・天気の変化で観測地点を推測したり、物の溶け方で水溶液を見分ける方法を説明したりする力に課題が見られる。根拠をもって説明することができる力が十分とは言えない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った ・…目標値と同程度 △…目標値を下回った

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	△		
第5学年	△	△ (第4学年時)	
第6学年	△	△ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察を通して、植物や昆虫の部位の名前や成長過程の理解は、概ねできている。 ・実験を通して、音が出ている時の物の震え方や伝わり方については、概ね理解している。 ・「知識・技能」については、基礎的な知識養う必要がある。	・いろいろな種類の生き物や植物を育てること、それぞれの共通点や差異点に気付くことができる。 ・実験結果から考察したり、考察したことを言葉で表現したりすることが難しい児童が多い。 ・「思考・判断・表現」は、確	・どの単元の学習にも意欲的に学習に取り組む児童が多い。昆虫や植物の世話も積極的に行ったり、実験に積極的に取り組んだりしている。

る。 ・理科用語の理解と実技技能の向上、実験器具の名称や扱い方の理解が不十分である。	実な定着とは言えない。 ・考えることや表現をすることに課題が見られる。観察して分かったことなどを観察カードに書けるようになったが、そこから予想したり、考えたりしたことを書くのはまだ難しい。	
--	--	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教科全体で確実な定着が必である。 ・電気のはたらきや月と星の動きについての理解が不十分である。	・実験結果を分析し、予想が正しかったかどうかを判断して記述形式で答えることに課題が残った。 ・天気の変化で観測地点を推測したり、物の溶け方で水溶液を見分ける方法を説明したりすることが達成できているとは言えない。根拠をもって説明することができる児童が少ない。	・自然の事物や現象の変化について関心をもち、課題解決や観察・実験に意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ・実験や観察を通して、課題を見出し、主体的に解決を図ろうとする児童が少ない。 ・実験が作業的で、次の活動につなげることが難しい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察や実験を通して、児童が実際に活動する中での、気付きを大切にする授業展開を行う。 ・理科用語については、丁寧に説明し、理解を促す。 ・観察や実験を通して、実験器具の名称や扱い方等の既習事項を再確認する。 ・複数の資料に触れ、必要な情報が何か考えられるようにする。	・単元の導入では、実感をもって観察・実験できるように、児童が直接経験できる機会を設定していく。 ・実験して分かったことや共通点・差異点を基にした考察やその表現方法を示す。 ・本時のねらいを明確にし、「問題」⇒「予想」⇒「実験」⇒「結果」⇒「考察」⇒「結論」といった問題解決型の学習過程を基本にして授業を行い、児童の理解や思考が深まるようにする。 ・学習資料の充実を図り、既習事項や生活経験を基に、予想や考察を自分の言葉で表現	・児童の身近な昆虫や植物に関わる機会や様々な実験に触れる機会を多く設定する。 ・児童がすすんで学習に取り組む、一人一人の思考を促すことができるような学習過程を工夫する。 ・観察や実験を通して、児童の気付き、疑問を学習の導入に取り入れ、児童が主体となって学習する学習過程を工夫する。

	できるようにする。	
--	-----------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・天候や季節に左右される単元は、デジタル教材を効果的に活用して、観察・実験の結果を捉えやすくする。 ・単元の終末に復習の時間を設け、知識の定着を図る。 ・観察や実験を通して、実物を見て違いを見付けたり、理解を深めたりすることができるようになる。 ・学習のまとめには、ICT 機器を活用し、ビデオ等でも確認することで、調べたことを再確認させる。	・実験結果を、事前に立てた仮説や予想と照らし合わせて考察することで、思考力を高められるようにする。また、結果から読み取れることを、根拠となるデータに基づいて具体的に説明したり、他の実験結果や関連する知識と比較し、考察を深めたりする活動を取り入れる。 ・言葉だけでなく、図や絵を用いることで、自分の考えを整理し、相手に伝えたり思考を整理したりできるようにする。	・児童の気付きやつぶやき、疑問を学習の導入に取り入れ、児童が主体となって取り組む学習過程を工夫する。 ・身近な生活場面での疑問と理科の事象が繋がっていることを気付かせ、興味・関心を広げる。 ・観察や実験をする際には、なるべく実物を自分の目で見たり、自分で触ったりして確かめることで、より関心・意欲が高まるようにする。